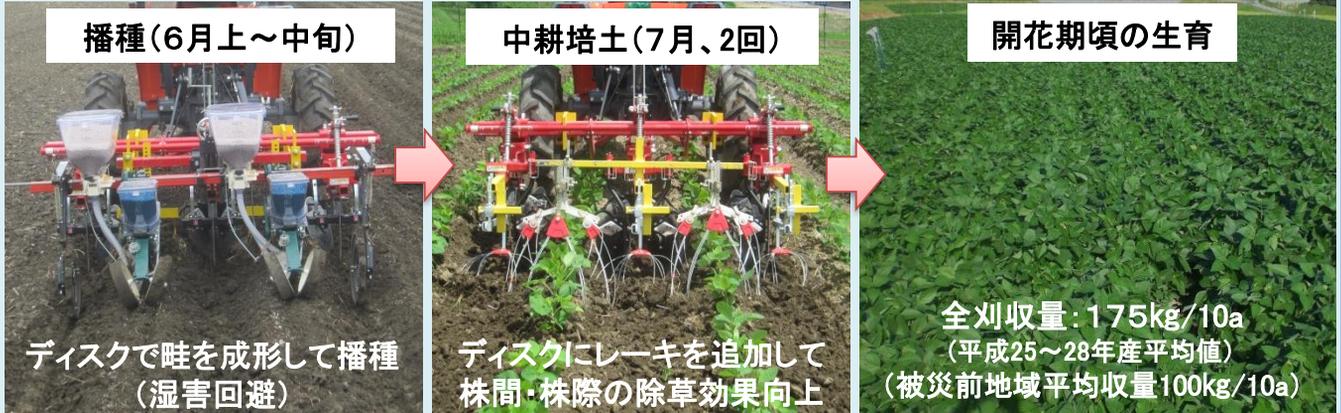


ソバなど省力的な土地利用型作物の安定生産技術

技術の概要

1 ディスク式畦立て播種技術による大豆栽培

ディスク式畑用中耕除草機を汎用利用(畦立て播種と中耕培土)



播種(6月上~中旬)

中耕培土(7月、2回)

開花期頃の生育

ディスクで畦を成形して播種
(湿害回避)

ディスクにレーキを追加して
株間・株際の除草効果向上

全刈収量: 175kg/10a
(平成25~28年産平均値)
(被災前地域平均収量100kg/10a)

※設定等の変更により そば、なたねも播種可能

2 小型汎用コンバインを複数の品目に利用して機械コストを低減

小型汎用コンバイン (M社製)



4トラックに
積載可能

適応作物:
稲、麦、大豆、
そば、なたね

稲と大豆の収穫に汎用利用した場合



汎用利用により、コンバインの所有台数を2台
(稲用、大豆用)から小型汎用コンバイン1台に
減らすことで機械コストを削減できる

期待される効果

- 1 ディスク式畦立て播種技術により、湿害が軽減され、大豆の収量の向上、安定化が期待できます。大豆60kg生産費は東北平均より17%削減(実証事例より)。
- 2 小型汎用コンバインを、例えば、稲、大豆の収穫に1台で汎用利用することで、収穫に係る機械コストを約24~27%削減。

【お問い合わせ先】

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
(東北農業研究センター) TEL:019-643-3540